

きのくに自主防災

第7号（平成21年7月号）

<発行元>

和歌山県自主防災組織情報連絡会事務局

（県庁総合防災課内）

〒640-8585和歌山市小松原通1-1

TEL：073-441-2271



（待ったなし！防災 事前ミーティングの状況）

～防災活動ひろば～

今回は、事務局が昭和の南海地震の体験者にインタビューを行い、体験談としてとりまとめましたので紹介します。過去に地震や津波を実際に体験された貴重な体験談です。



（塩路 武男さん）

印南町印南在住 塩路 武男 さん（77歳）の昭和の南海地震体験談を紹介します。

~~~~~

### 地震が来たときの状況

昭和7年生まれなので、当時私は14歳ぐらいだった。

昭和21年12月21日午前4時19分に地震があった。長い間揺れていた。

普段物静かな父が、地震の揺れが収まったあと、すごい気迫で「くるぞ！」と家族に声をかけた。その時は、いったい何が来るのかは分からなかったが、父の指示により父と私で6畳間と8畳間の畳を急いで上げ、そこにお酒の箱を置いて、その上に外した畳を積んだ。さらにたんすの引き出しを抜いて、その畳の上に引き出しを積んだ。浸水により畳やたんすの引き出しの中身がぬれないようにするためだと後で分かった。その後小さい子も連れて家族みんなで山に逃げた。地震の揺れの後、その一連の行動を父と一緒にやったということは、津波が来るまで10分ぐらいあったかもしれない。戦後間もなくだったということもあ

り、非常時持ち出し用のリュックサックは用意していたので、それを持って逃げた。

津波の時は、浜の方から人間の声とは思えない“ぎゃー”という声（多分「津波が来るぞー」という人間の声だったかもしれない）が聞こえていた。



（印南川）

現在は、盛土をして堤防のようになっている国道42号線が、海と集落の間にあるが、当時は国道42号線がなく海岸沿いは砂浜だったので、津波は遮られることなく港から直接襲ってきた。

私の住んでいる地域には、津波は海と印南川の両方から襲ってきた。津波は普通の波とは違う。最初は水が押し寄せて来るばかりだから足をとられる。逃げ遅れて亡くなった人が多い。逆に引くときは水が引くばかりだ。

港には木とか砂利を運ぶ大きな船が停泊していたが、津波で印南川に流され八幡橋を超えて田んぼに運ばれた。病院の前に1隻、駅の前に1隻、

当時の役場の前に1隻と合計3隻が流されていた。八幡橋の欄干が壊れていなかったの、船はその欄干の上を越えて流されていったのだろう。

(取材者：現地を見たが、まさかこの橋の上を大きな船が流されていったとは……。津波のすごさを感じた)



(印南川にかかる八幡橋)

[この橋の欄干上を津波により大きな船が流された]

地震が12月の朝4時で暗かったので、山に避難して山の上でたき火していた。まっくらで見えなかったが、田んぼに落ちる大量の水の音と、津波で流された船が家を壊すガリガリという音が闇の中に響き渡っていた。

明るくなって、印南湾を見たら津波で流された家財道具がいっぱい浮かんでいて海の水が見えないくらいだった。しかし夕方にはその家財道具は印南湾の外に流されていた。

### 地震による被害

宝永の地震の際に、この辺りでは175人〔注 印南175人、切目21人〕亡くなった。

安政の地震は最初にゆれた後32時間後に同じくらい揺れた。〔安政東海地震、安政南海地震〕最初の揺れの際は津波が来なかった。2回目の揺れの際は津波が来たが1人も死ななかった。印定寺には宝永の地震で亡くなった162人の合同位牌もあり、地震や津波の過去の被害のことが伝わっていたことが被害を小さくしたのだ。

昭和の南海地震の際は17人死亡した。昭和の南海地震で亡くなっている17人は、お年寄りと子供が多い。昔との違いは、家の混み合い具合などが問題で、避難に支障が出たのかもしれない。

### 過去の地震による教訓

地震の揺れが収まった際のおやじの気迫のこ

もった一言「来るぞ！」が大変重要だった。緊急時には周りを引っ張っていくリーダーシップが必要である。

私が、子供の頃に教えられたのは、地震の際は津波が来るので、家に帰ってこないで高いところに逃げろということだった。

津波から逃げるうえで大事なことは、逃げるタイミングを間違わないこと。津波がきたときは道が怖い。中途半端に逃げ始めると津波に足をとられて流されてしまう。逃げるタイミングを逸したら無理に逃げないで家に飛び込んででも2階にあがった方がいい。大事なことは、逃げ遅れたら無理して逃げないこと。

当時は足が水につからないで逃げてきた人もいたが、ずぶぬれになって山にきた人もいる。ある人は背中に背負っている子供は助かったが、手を引いていた小学6年生の子供は亡くなった。他にも逃げている途中で小学生ぐらいの子が亡くなっている。

津波による我が家への影響については、津波による浸水で家の中に水が増えてきて、津波が引いたら家の中から水が引いただけで、破壊されてたということはない。ただし、川のそばの家は、津波で流された大きな船により破壊されたため津波が家の中まで入り込み壊されたようだ。

多くの死者がでた宝永の地震から約150年後に発生した安政の地震では死者がゼロだった。150年の時間が経過しているが、地域ではその間に親から子供へその体験が語り継がれていたことが被害を小さくしている。

14年前の阪神大震災でも忘れかけられているというが、南海地震も語り継いでいかないとはいけない。若い人は聞きたくないというかもしれないけど、年寄りの役目は過去の体験した災害のことを伝えることだ。今は昔の人の話を聞く機会がない。地区などで話してあげるのが親切だと思う。

### 最後に

災害は町で守ってくれるのではない。自分(家族)で命を守るんだという意識が必要。

特に家庭ではリーダーたる家長がうろたえてはいけぬ。今でも親父の“くるぞ”という言葉は忘れられない。



## トピックス 防災・きのくに東西南北

### 和歌浦地区防災会の活動について (和歌山市)

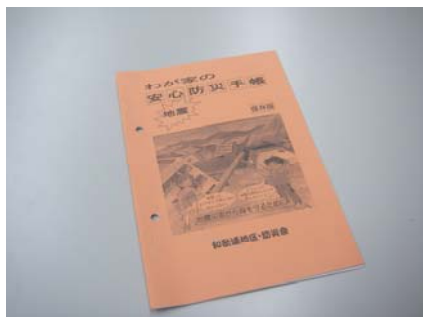
和歌浦地区にて自主防災組織が積極的に活動されている事例をご紹介します。

~~~~~

和歌浦地区は、和歌浦湾に面しており、地区内には和歌川、津屋川、市町川の3河川があり、埋立地も多く、地震が発生すると地形的に非常に弱さを暴露する地域であります。また、古くからの町であり古い建物も多く、65歳以上の高齢化率も高く、災害時要援護者の多い地域であります。それだけに大きな地震が起こると、津波・液状化・火災等が予想され避難にも課題があります。

そこで、災害から地域住民の生命と財産を守るため、「自分たちの町は、自分たちで守る。」という意識の下、和歌浦地区防災会を平成17年2月に再整備し、地域に密着した防災活動の展開を目標に掲げました。

災害は必ずやってきますが、少しでも被害を少なくするため、私たちが今出来ることから行っています。まず、「わが家の防災手帳」を全家庭に配布し、「防災アンケート調査」も全家庭を対象に実施しました。また、啓発として定期的に広報誌「防災わかうら」を全家庭に配布しています。



(わが家の防災手帳)

昨年度は、わが町の防災点検アンケートに全24自治会が参加し、「地区別診断項目」として、災害時に心配な場所・津波避難に役立つ場所・避難に有効な場所など地域の特性や町の災害危険箇所をみんなで考え、「地区防災マップ」を作成し、全家庭に配布いたしました。

今、私たちの町でも、つながり力が希薄になってきています。安全安心な町として、あるべき町の姿として、この事が大きな課題だと考えていま

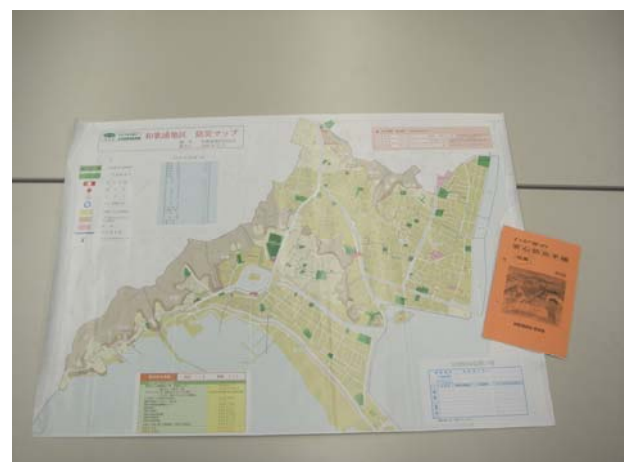


(体験型の防災訓練の様子)

す。防災活動をてこに、「安心安全な町を創る」ためには、お互いの助け合い活動、地域コミュニティのある地域づくりが欠かせません。

今年度は、地域のつながり力を高めるため、子供を主体とした体験型の防災訓練を、各種団体等の協力を得て行い、放水訓練、消火器使用体験、防災資機材使用体験、起震車による地震体験、救命ボート乗船体験等を実施しました。計画を大きく上回る400人の方が参加されました。この防災訓練に対するアンケートの評価も良く、これらの体験を通じて、家庭の防災会議につながり、防災意識が高まり、地域の助け合い活動等に少しでも役立てればと考えています。

まだまだ課題は沢山ありますが、一步一步前進していくよう継続する事が大切だと考えています。



(地区防災マップ)

FMビーチステーションにおける防災活動 「待ったなし！防災」 (白浜町)

平成19年8月号の会報誌にもご紹介させていただいたところですが、この度、さらに新しい取り組みを始められたということで、収録に同行取材させていただきましたので、ご紹介します。

~~~~~

## 1. 番組紹介

平成19年5月から白浜町のコミュニティFM放送局「白浜ビーチステーション」にて放送が始まったこの番組は、各期間でテーマが変わり、パート1は「トイレが大変!」、今年の4月まではパート2として「避難所が大変!」、そして、現在はパート3として「自主防災活動 大変だけどやってみよう!」と番組を続けている、工夫をこらした新しいスタイルの番組です。

**待ったなし！防災**  
 白浜ビーチステーション  
 (聴取エリア 白浜町周辺)  
 放送日 (FM76.4MHZ)  
 毎週月曜日 16:30~17:00

今回はそのパート3の収録として、スタジオを飛び出し、昭和の南海地震の際に津波で大きな被害を受けた網不知(つなしらす)地区を歩きながら収録し、地元の方にインタビューを行うという方法をとりました。

今回の収録に出演しているのは、パーソナリティの岡本幸子さん。「紀の国防災人づくり塾」の終了後、防災士の資格を取得し、和歌山大学防災研究教育プロジェクトのサポートを受けながら地域で活動している、わかやまウィメンズワッチタワーの市場美佐子さん、三和田真由美さん、幾島浩恵さん。白浜町中区の区長、坂上喜夫さん。そしてこの番組の企画・監修を担当している和歌山大学防災研究教育プロジェクト 今西 武客員准教授の計5名にて収録を行いました。

## 2. 今回収録を行う地域

まず、最初に白浜町網不知地区について説明しましょう。ここはすぐ目の前が湾になっており、波が大変穏やかなため、船を係留しておく網も必



(白浜第一小学校にて収録の様子)

要ない程だというのがこの地名の由来だそうです。そのように穏やかな湾ですが、過去の南海地震による津波やチリ津波の際には大きな被害を受けてきた歴史があります。

昭和の南海地震では、地震から約10分ぐらいで津波が押し寄せたといわれ、ほぼ全戸床上浸水し、14名の尊い命が失われたということです。

東南海・南海地震では100年から150年間隔で大きな地震と津波が起こっていることは歴史的に見て明らかであり、昭和の南海地震から62年以上が経過し、次の地震の発生時期が迫り、災害の記憶が薄れてきている近年、このような過去の災害を取材して放送する取り組みは重要なことだといえます。

## 3. 現地での活動

収録は、地域の避難所となっている白浜第一小学校からスタートしました。昭和の南海地震の際はここ



(白浜第一小学校)

で炊き出しや食料の配給があったそうです。そこから御幸通りを棧橋まで歩きました。棧橋には大きな船や漁船が係留されており、本当に静かな湾内で、津波がくることをなかなかイメージすることはできません。当時に襲ってきた津波の高さは4m程度だっ



(棧橋から湾を望む)





(綱の地蔵さんのお堂敷地内の供養塔)



(津波水位が刻まれた供養塔裏側)

たそうです。地域には綱の地蔵さんとよばれるお堂があり、敷地の一角に「大津波犠牲者供養塔」があります。その供養塔の裏側には2つの水位が刻まれています。地上2mぐらいのところには「昭和21年12月21日 南海地震津波水位」、地上20cmぐらいのところには「昭和35年5月24日 チリ津波水位」と刻まれています。津波の高さが何mとか言われるよりも、実際に災害が記録された供養塔をみると、普通のきれいな街では想像もつかない、災害の痕跡に衝撃を受けます。

きのくに自主防災インタビューした綱町内会防災会長の正木 克之介さんが、綱地蔵のお堂の中を案内してくれました。お堂の中には「東白浜地区災害記録」が額に入れられて壁に飾ってあり、その中には宝永・安政・昭和の南海地震とチリ津波の際の被害について

の記録が書かれていました。これは地域の人々の命を守るため先人たちが教訓として残しているものだそうです。親から子供、そして孫へと代々伝えていく途中で細かいことなどが忘れてしまう。書で確実に残すためにこのような形にしたのだろうと、おっしゃっていました。

防災活動などのサポートや、相談がある場合は、和歌山大学防災研究教育プロジェクトで相談にのることが可能とのことです。

(和歌山大学防災研究教育プロジェクト 073-457-7558)

### 昭和の南海地震体験談 (白浜町)

収録では、ちょうど地元住民の方にも昭和の南海地震の際の体験談を聞くことができました。大変参考となる話なので、ここではそれを紹介させていただきます。

~~~~~

綱不知地区では、地震から約10分前後で津波が襲って来たと思う。1階屋根瓦が3枚浸水するほどの津波の高さがあり、近くの高台まで逃げた。12月の夜明け前だったので、高台に避難した後も寒くて、たき火をして体を温めた。たき火のため、木の枝を折って持って行くのに忙しかった記憶がある。

不幸にも亡くなった方の中には子供も何人かおられたと思う。(注 資料によると亡くなられた14人の内、子供は5人、50歳以上の方は6人だった) その中には他の地域から来た地域に慣れていない人もいた。津波は平地ならば淹みたいに来るのが早い。ここに住んでいたら逃げる道が分かるが、夜明け前の暗い中、道をよく知らない人が1人では逃げられない。電柱にしがみついたが、耐えられずに流された人もいた。着の身着のまま高台に逃げたのでとても寒かった。

津波では海水だけでなく、材木・小舟と一緒に

流されていて、水が1日中押したり引いたりしていた。材木などが流れて家がつぶれる音がしていた。昔の家は基礎に乗せていただけだったので流れてしまった。

地震の後は余震があり、余震があるたびに怖くてぐっすり眠ることができなかった。

高台に避難していたときに困ったことは、とにかく水に不自由したことを記憶している。食べ物については津波で浸水しなかった人たちが炊き出しをしてくれたようで、お腹がすいたという記憶はない。とにかく着の身着のまま寒かったことをよく覚えている。

チリの津波でも、この地域は被害にあったので、私は2回も津波を経験している。

おじいさんから安政の南海地震の話を知っていたので、地震がきたら津波が来ることは頭に刻み込まれていた。自分の子供にも体験談を話している。



この辺りは1階の屋根ぐらいまで津波により浸水したそうです。(綱の地蔵さんのお堂周辺)

原稿：和歌山県総合防災課

橋本防災士の会の活動 (橋本市)

橋本地域の防災力向上にむけて地域で積極的に活動している事例をご紹介します。

~~~~~

### 1. 設立経緯

私たちの防災ボランティア団体のメンバーは、「紀の国防災人づくり塾」を終了された防災士の方ならびに既に防災士として活動されて居られた方で会の趣旨にご賛同頂いた橋本地域の有志18名により平成19年8月に“橋本防災士の会”を立ち上げることができました。

### 2. 目的と研鑽

その目的は、自分達が学んだことを地域住民の方々に、微力ながらも少しでも防災に対するノウハウをお役に立てればと思い、活動しています。

活動は、会員個々のパワーをより効果的に発揮するには、相互協力や情報を共有し合いながら、偶数月の第二日曜日の午後を基本にして、市役所の会議室を借りて、勉強会などを重ねて研鑽に努めています。

### 3. 活動内容

21年度の活動内容は、研修会を軸にして、橋本市役所(市民安全課)・消防本部・消防団・社会福祉協議会・自治会・既存の防災会との



(例会の様子)

連携や協働を図りながら、各地区の自主防災会の立ち上げ支援、高齢者・一人暮らしの方への家具転倒防止の協力、行政が行う啓発活動の協力、子ども達への防災教室の設置や会員によるサバイバル訓練及び危険箇所などの発見と行政への協力等を事業計画としております。

会員は、多才な職業・経験豊富な方で構成されており、みんなで補完しあっています。

### 4. 会員の募集

これからも当会が防災ネットワークを強固にするために、会員の募集を行っていますので、「紀の国防災人づくり塾」を終了された方や防災士・防災関係に携わった方の参加をお待ちしております。ご指導下さい。

あくまでもボランティア活動の一端です。



(普通救命講習会の様子)



(普通救命講習会の様子)

原稿提供：橋本防災士の会 会長 篠原淳夫 様  
TEL：0736-36-0629  
[メール a-shino8752@hera.eonet.ne.jp](mailto:a-shino8752@hera.eonet.ne.jp)



## 「紀の国防災人づくり塾」受講者を募集しています！

地域の自主防災組織や企業等の組織などで、防災の中心的な担い手となる地域防災リーダーを育成するため、防災に関する知識、技術を学ぶ講座を開設します。

自主防災組織で活動されている方、企業等の組織で防災に携わる方、これから地域で活動したいと考えている方、これからリーダーになろうと考えている方など、ぜひご応募ください。

なお、本講座修了者には、「NPO法人日本防災士機構」が実施する「防災士資格取得試験」の受験資格が付与されますので、ぜひ防災士資格取得試験の受験についてもお考え下さい。

### (1) 開催日時・場所

| 会場   | 開催場所          | 開催日                 | 時間    | 備考                |
|------|---------------|---------------------|-------|-------------------|
| 橋本会場 | 橋本市<br>教育文化会館 | 8/23、9/13           | 10時   | 日によって終了時間が多少前後します |
|      |               | 10/4、11/15          | ～     |                   |
|      |               | 12/6                | 16時前後 |                   |
| 御坊会場 | 御坊市<br>中央公民会館 | 8/23、12/6           | 10時   | 日によって終了時間が多少前後します |
|      |               |                     | ～     |                   |
|      | 御坊市役所         | 9/27、10/25<br>11/15 | 16時前後 |                   |

※全て日曜日開催。

※講座最終日の閉会式終了後に防災士資格取得試験があります。(受験希望者のみ)

### (2) 受講者の募集

- ・募集期間 平成21年7月6日(月)～平成21年7月24日(金)
- ・募集対象 和歌山県内に在住、在勤、在学の16歳以上で全講座出席可能な方
- ・受講料 無料(但し、防災士資格取得試験用の教本購入費¥2,000別途必要)
- ・募集人員 各会場70名。応募者多数の場合は、申し込み先着順とします。
- ・申込方法 受講申込書に必要事項を記入し、郵送、FAX又はe-mailで和歌山県危機管理局総合防災課まで申し込みをしてください。  
また、個人情報については、適正に取り扱い本来の目的以外には使用しません。
- ・受講決定 申込者あて当課より連絡します。
- ・申込先 〒640-8585 和歌山市小松原通1-1 和歌山県危機管理局総合防災課  
FAX 073-422-7652 e-mail [e0114001@pref.wakayama.lg.jp](mailto:e0114001@pref.wakayama.lg.jp)
- ・問い合わせ先 和歌山県危機管理局総合防災課防災企画班 TEL 073-441-2271
- ・受講申込書や募集案内について  
募集案内(受講申込書)や講座内容等については、市町村、各振興局、県庁総合防災課に置いています。  
なお、県庁総合防災課ホームページにも掲載しておりますのでご利用下さい。

### (3) その他留意事項

防災士の資格取得に要する経費(資格取得希望者のみ各自負担)

- ・平成21年度防災士教本購入費 2,000円
- ・平成21年度防災士資格取得試験受験料 3,000円
- ・平成21年度防災士認証料 5,000円

なお、防災士になるためには、「防災士資格取得試験」に合格し、消防署等で実施する普通救命講習(3時間)を履修することの要件を満たしたうえで、日本防災士機構に認証手続きを行います。詳しくは、講義初日に説明を行います。

**平成21年度和歌山県防災気象講演会を開催します！**

地球温暖化等の影響により、近年、局地的な豪雨などによる被害の頻度が増えています。そこで、和歌山県と和歌山地方気象台では、実際に豪雨を体験した方や気象の専門家を招き、風水害対策についての理解を深めていただくことを目的とした標記講演会を開催いたします。

夏休み期間中なので、学生の方もどんどん参加してください！

- 開催日時 平成21年8月6日(木) 13:30～16:30
- 会場 和歌山県民文化会館 小ホール
- 対象 一般及び中高生の方々、防災関係者 ○参加費 無料
- 定員 400名 (定員になり次第締め切らせていただきます)
- 申込方法 事前の申込が必要です。案内、申込書は総合防災課・振興局・市町村に置いてあります。ホームページにも掲載していますのでご利用ください。

**秋にも、みなべ町にて講演会を行う予定ですので、興味がある方は是非参加してください！**

**災害に備えて、防災わかやまメール配信サービスに登録しよう！****防災わかやまメール配信サービス**

気象情報や被害情報、その他緊急情報などを電子メールで配信するサービスです。

警報・注意報 土砂災害警戒情報 台風情報 竜巻注意情報 地震情報 津波情報 雨量情報 河川水位情報 ダム放流情報 避難発令情報

**■登録の流れ****1.空メール送信**

[regist@bousai.pref.wakayama.lg.jp]

上記アドレスにそのままメールを送信してください。(件名・本文は不要)

右のQRコードを携帯電話で読み込んでメールを送信することも可能です。

**2.返信メールが届きます**

登録用URLが記載されたメールが返信されます。

**3.登録**

登録用URLにインターネット経由でアクセスし、情報を登録します。

**4.登録完了**

登録後に登録完了通知が届けば登録は完了です。



※登録を行う前に[bousai.pref.wakayama.lg.jp]ドメインからのメールを受信できるように設定してください。設定変更については、各プロバイダーにお問い合わせください。

**活動事例募集中！（地震・津波・洪水等の過去の災害の体験談も募集しています！）**

地域で防災活動に取り組まれている皆様の活動事例を本会報誌で紹介していきたいと考えています。また、昭和の南海地震などの体験談も語り継いでいきたいと考えています。つきましては、活動事例等をご紹介いただける方がございましたらメール、FAX、郵送にて下記までご送付願います。

なお、紙面の都合により、ご提供いただいた方すべての原稿を掲載できない場合や原稿を修正させていただく場合もございますが予めご了承ください。字数等については、800～1200字程度でご検討いただければ幸いです。また、活動の写真もご提供いただければ、原稿とともに掲載したいと考えています。

記

- 1 提出先 和歌山県自主防災組織情報連絡会 事務局（和歌山県危機管理局総合防災課内）
- 2 提出方法 E-mail：[e0114001@pref.wakayama.lg.jp](mailto:e0114001@pref.wakayama.lg.jp) FAX：073-422-7652  
郵送：〒640-8585 和歌山市小松原通1-1 和歌山県庁危機管理局総合防災課 行き

**\*活動事例を会報誌に掲載させていただく場合に、県総合防災課からご連絡させていただく場合もございますので、住所、氏名、電話番号を必ずご記入のうえ、原稿をご提供いただきますようお願いいたします。**

**【お問い合わせ先】 和歌山県危機管理局総合防災課 防災企画班 TEL：073-441-2271**